惠美氏譜牒

單

H 20
464

鷗外藏書

廣島山大手町一丁目 井原市次郎

余か嘗て[illegible]中学校に在りし時[illegible]
我か先輩たる[illegible]
氏の紹介[illegible]
同氏の伴[illegible]
上手なれとも[illegible]
三たの[illegible]あるに[illegible]事[illegible]
之を図るに[illegible]
學と云ふて[illegible]
衛同[illegible]
ありしも[illegible]
と甚だ[illegible]も今は余[illegible]
[illegible] ○同年の過去[illegible]

H20-464

東京帝國大學圖書之印

B 23475

なせしも草花の写いて西洋法画
待チ申候、必ず拙者へ了簡
本帯ハ外所内にて申上候事
あり是等の事ハ誠ニ難有候
事実家の位と違ひ候事
実ハ時かりし也十年前ハ
生国にて日本人ニ西洋の事
目ハ日本人の目也ハ役にも立
ろ理学所不残学ひ候人ハ林大学
人かりき
他ハ唐画家あり其画法ニ落ちる
唯一定の法の華ありといへる者

松本氏ハ代々馬術指南番
にて前野家ハ仕了、近年
公ハ古大家とある吉長公
家七世体国院吉長公の事
家ハ理学の事七代加[illegible]三郎
氏七代近江[illegible]の内なり
此ら事実家ハ医師の事
といふ人の田舎出先生まで
ハ申上候

十一月　十日
森先生
　　　　　　二郎
人

(鳴盛堂製)

大正　年　月　日

氏宇田　名市郎右衛門　奥州白川　後二本松ニ居住

某　名助六郎　二本松ニ居住

常福　改氏恵美　名逸平　織田山城守ニ仕ヘ

定矩　代次郎

定宥　市右衛門

定昌　鉄次郎　初名代三郎　後市右衛門　天保元年十月廿八日吉長公ニ為召出

定雄　鉄次郎　初名辰三郎

保定　三之丞

時敏　鉄次郎　初名乙三郎　後鉄久

文吉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

丁巳十二月十一日付 [illegible]郎

森鷗外先生

[illegible]市[illegible]郎

去脈ニ就テ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大要ノ綴[illegible]

[illegible]

本字傳說

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

近代[illegible]

[illegible]

丁巳十二月十一日付 [illegible]郎

擱筆ノ文字ハ東恩美人撰篆方ノ現存セル同宗家譜寫シ用ニ題文ノミ一字モ訂正又ハ削補加筆セズ

擱筆ノ文字ハ
東方勝手之旨
去晩ニ就テ候
[illegible]現
[illegible]セハ墓
孔ハ友ノ如シ
[illegible]圓
大典ノ續[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

東恩王由過[illegible]記

本字傳說
因云[illegible]ハ姓[illegible]
[illegible]ト云ヒ[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ不[illegible]
門近[illegible]
[illegible]
[illegible]ト云人アレ[illegible]
[illegible]
[illegible]ナル[illegible]
近代[illegible]

享保十八年正月十七日卒
室（ユカノ母ナリ）
法謚（釈蘭室妙香尼）
宝暦八年五月八日卒

十六人分ハ祖ト定ルニ如ク

初代
○貞徳　玄良
厚子ノ人明ナ未詳于盧島
年　月十七日卒葬于東勝寺
法謚徳本院玄良居士

二代
貞策
初世三右衛門　別号寧固
東堀柳町貞全男玄良養子

天明元年十月八日卒
年七十五
無量覚院釈宝
ま□□貞
安永八年七月
廿三日卒

年十月八日卒葬于東勝寺
法謚起備院賞音流□居士
室三河ノ産石橋氏□方
法謚無量覚院

三代
貞璋
初称中　後三右衛門　別号大哭
室ハ関所小松長尾要□意男
寧固□□養子□□□
人□引□□□□年□□□□
八日□江戸□□□□□国□□

年七十八

宝蓮院妙香
妙蓮ハ善女
寛政五年三月
廿七日卒

年八十

葬ル芝誓願寺塔中蓮座
法諡 顕禅院梅隨靈方居士
室 三上氏 三上儀右衛門姉
法諡 宝蓮院

某 直秀
初 三吉 後 元四郎 三世 別 玄蕃
安永□年男 直重 長子 九
天保十二年辛丑四月廿四日卒 葬
于霄勝寺
法諡 □□院□□□□居士

直郎院蓮室
妙香大姉 天保
八年六月卒

室 植田氏 植田直馬女
法諡 直春□院
直明
三郎 系別ニアリ
直興
吉之丞 系別ニアリ
某 直繕
初 吉兵衛 後 直白 四世 別 伊兵衛
弘化二年乙巳八月廿七日卒 葬

（鳴盛堂製）

桂香院心月妙照
大姉 嘉永二年
十月十七日

于專勝寺

妙隆 大細院玄凡仙嶋居士

室 竹腰■ 竹腰信姓

法諡 桂香院

六代
直進

養嗣

當時ノ主

以下

(妙)ト云ハ八、妙隆院過
去帳ニ載ル室也

(一妙)
文化十四年丁丑九月
十日卒

(妙)基差ニ八
本姓仙波氏室
父思ノ伊勢浪
穴部出郷村人

(專勝寺過去帳)
慧光院直藝妙寿大姉
寛政十一年十一月二日

勝吉又嗣家

初名
直明

三州 別号出羽周

實ハ伊予松山人 天岸某男 大
坪養氏吉子改ム 其後ハ一家ノ別宗

法諡 觀性院細楚道善居士

葬妙壽院ニアリ

室 大世ノ女

法諡 慧光院直藝妙寿大姉

葬于專勝寺ニアリ

（妻）継室小川氏
正授院進誉
智精大姉
文化十三年八月
十日卒

（妹）
文政三年四月
朔日卒
妙善院三八
伊予守浮見新土居
村人卒年三十四

継室 小川氏 小川故晩女
法諡 正授院
墓ハ妙覚院ニアリ

二代
貞経
初名三喬 後三郎
実ハ伊予大洲ノ人貞明養
子トナシ女妻ス
法諡 仁峯院寛誉[illegible]居士
墓ハ妙覚院ニアリ

（妙）過去帳ニ
八雲刀アリ
信[illegible]院[illegible]
浄光居士
明治五年壬申
二十日没
享年六十
西
又墓ニ
小関[illegible]
墓トアリ

三代
貞盛
初名三友 後三郎
実ハ貞明男貞経之養子
幸時ノ生

某
三友

(鳴盛堂製)

以下
趣アルヲ趣
貫妻ノ事

（遠ヘ）
貞満ノ差アリ
柳軒堤貞満
天和二年七月廿
三日卒

自家本系　藤原姓
家紋宇家ニ令し
九ニ十文字　替紋丸ニ揚羽蝶
初称
○貞嬰
初ハ迪　後ニ圭　別号桂樹
家ハ堤柳軒貞満男
母ハ防州小松長尾蒼庵養女大
姪ノ娃
幼名貞吉　先生続斎翁ノ仰ニ依テ
三十二ノ桂樹ヲ称シ号ハ家ヲ嗣グ

上ハ妻女ノ嫡女　後年
公命ニ依テ別家ト相　十八
天明二年壬寅　月　日生
天保五年甲午十二月廿七日卒
葬于起遷寺　行年五十三才
法諡　院居　道居士
室　又ハ白貞芳女
文化七年庚午二月　卒　葬勝
妻ハ芳九
法諡慧照院　大姉
後ニ十月　離縁
継室　田氏　田　郎ノ娘

養女 実ハ三村自明女
安政五年戊午九月十二日逝去
法號 真珠院妙照慈温大姉

一男
堤亀龍 早世
妾腹六桂院殿高岳恵実
此名色ヲ前ノ人故ニ此ニ系
相ニハ云門前堤ノ家ヲ継
加ハ可継事

二代
上白謝
乙田 緒習九
母ハ本実玄〓光生女
文化六年己巳二月十六日誕生
明治三年庚午正月廿三日卒
葬ハ手越隆実寺 行年六十二歳
法號 真光院同心至道居士
自敬謹識
室 安藤氏 安藤嘉次女
天保九年戊戌七月十九日卒
法號 一要院光院真如月妙照大姉

継室 松尾氏 松尾昌五郎女

一範儀 五蔵 妾腹

笠坊長兵衛於行養子

一徳貞 東蔵 五蔵同腹

玄覧四男ニ宿シテ笠原徳玄丈養子

〆養子トナル十九

母ハ小島氏

一女子 従園丈英妻

一男 万寿太郎 早世

母ハ安藤氏 天保十年己亥二月五日卒

法諱 同慶董蘭童子

直寛 元英

実ハ高橋英軌嫡男 英観氏英男

文久元辛酉年九月廿三日卒 年廿七歳

法諱釈□□信士 大悲居士

見

一直敬 元鳳 後雉二郎

実ハ大音播磨守元凱二男

母ハ松尾氏

一女子

養子元鳳室

一二世 鶴

右系譜一巻者遠祖瀬兵衛尚文とし（とも）

近代判等聞傳ふ所書記した置

者也

元治二年乙丑

正月

三田道

花村

○貞一郎　初三國　後蒼吉　剃髪改

三代
貞敬
分

初元臣　後雅二郎　又號鴨城　剃髪号西齋　年

實ハ清水元敬之男　元治元年

甲子八月廿七日受家督讓ヲ養子也

明治二年二月十一日卒

諡浄光院釈徳潤道居士

母ハ元又濱五右長女

一男　捨吉　慶應四年戊辰正月二日死體出生

法諱　知水童子

一女子　寳　同腹　明治四年三月十一日出生

右ハ明治廿二年四月賀茂郡竹原町士三九平長男平

民永井徳吉郎ヘ嫁セシム

一男子　璋象　明治九年五月十二日出生　母ハ前同腹

明治廿九年十月廿一日直士入籍取計ヒ豊田郡大崎南

村字明石方三十六番邸　平民　水下兵藤四郎二女三廿

（鳴盛堂製）

右者璋象妻女トス（明治十一年四月三日生）

一次女　鶴　継室以腹　明治十五年二月二日出生
右ハ明治十七年五月六日稚二郎御用出張中卒ス
法諱　善教明智童女

一二男　芳房　継前同腹　明治十六年三月廿七日出生

一三女　春代　死亡（継室永井氏ノ腹ニ永井氏ヨリ早世）

一四女　乙女　死亡（同上）

（鳴盛堂製）

室　亡父省吾長女　千代
明治十三年十二月廿三日卒　行年三十一年三ヶ月
法諱　貞光院浄心恵照大姉

継室　亡父省吾二女　鶴
右ハ沼田郡中調子村荒瀬周治養女ヽ遣シ置キしが後継室ニ貰受ケ
明治十九年八月廿八日卒　行年二十二年五ヶ月
法諱　釋曜照信女

継室　賀茂郡竹原町平民亡永井三九平五女永井セイ
右ハ明治廿二年四月十三日入籍

（鳴齋堂製）

恵美三白

廬島ノ人、名ハ貞榮、字ハ子幹、三白ハ通称、卓園ト號ス、本姓ハ堤氏、世々醫ヲ以テ著ハル、三白幼ニシテ頴悟明敏、伊予ノ醫、恵美良玄ノ養子トナル、廬島ニ住セリ、數年ニシテ良玄歿ス、三白其遺醫ヲ繼キ、醫法得、傷寒論ヲ誦ミ、大ニ時流ト所見ヲ異ニス、世醫徒ニ温補ヲ本トシ、劇剤ヲ投スルコトヲ知ラス、三白之ヲ非トシ、専ラ攻撃ヲ用ヒ、吐法ヲ行フ、時ニ世價未タ揚ラス、時人或ハ之ヲ疑フ、而シテ施術益奇驗アリ、難症瘳ク服シ、四方ノヲ請フ者多シ、是ヨリ先キ、越前ノ人、奥村良竹吐

方ヲ創始シ、奇験アリ、名一時ニ喧カリシモ能ク
継述スルモノナシ、三白獨リ継テ出テ、甚ヒテ法方
ヲ盛ニシ、其晩又ヲ尽シ、名益高シ、天明元年十月
八日没ス、年七十五、廣島壇谷町専勝寺ニ葬ル

恵美大笑

名ハ良璋、字ハ君達、通称ハ三白、大笑ハ其号、
本、周防山口ノ人、本姓ハ長尾氏、父名ハ某、諱、弱
冠ニシテ廣島ニ来リ、医ヲ恵美三白ニ学フ、三白
國長子正因死シテ季子養健尚幼ナリ、因テ大
笑ヲ養ヒ嗣トシ、以テ養健ニ及ホサシム、三白因シ、
没シテ大笑俸廿口ヲ得、藩命ヲ以テ三白ト称ス、例
医秩ヲ拝ス、後チ増俸二百口、例外ナリ、前数道ヲ

因巳ハ吐法ニ妙ヲ得、大笑亦吐法ヲ其門ニ得、名
天下ニ高ク、前後弟子五十七州ニ渉リ、六百余人ニ至
ルハ人トナリ疏闊切直、病家門ニ満ツ、其江氏ニ継
没スルヤ、公道ニ要シテ診ヲ請フ者旅館ニ溢ル、
文政元年六月八日、江戸ニ没ス、年七十六、赤坂威
徳寺ニ葬ル、其遺髪落歯ヲ収メテ廣島
専勝寺ニ葬ル

恵美三圭

廣島ノ人、名ハ初メ養健、後チ貞秀、字ハ君
実、三圭ト称ス、後チ三白氏ノ称ヲ嗣ク、父ハ
初メ三白ノ嗣、三圭幼ナルヲ以テ大笑外ヨリ来リ、
宗ヲ継ケ、三圭ノ長スルヲ待ツ、藩主ニ仕ヘ侍

医トナル、天保十二年正月没ス、年八十

（以上惠美三氏の傳記は館薇之筆録）